

ICT活用牧草生産実証事業概要

現状と課題

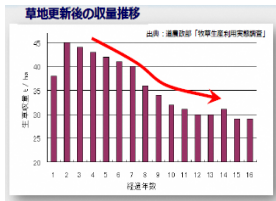
高齢化や後継者不足など労働力の不足により、牧草の品質と収量確保に必要な草地の植生改善や、飼料調製作業に近い将来大きな支障を来すことが強く懸念される。衛星データや自動操舵システム等 ICT 技術を活用した効果的なピンポイント草地更新を実証し、牧草生産における労働力の負担軽減と草地管理の効率化を一段と進める。

期待される効果

- ①労働力不足への対応と草地管理の効率化
- ②収量増及び経営コストの低減
- ③良質な飼料生産による乳量増加、生乳生産量の安定化
- ④非熟練者でも草地更新作業実施が可能
- ⑤コスト削減による国際競争力の強化



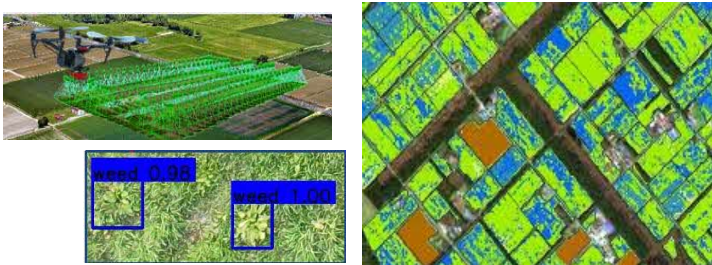
実証内容



労働力不足などにより草地更新実施が困難

ほ場劣化に伴う雑草増加、牧草収量・栄養価低下

ICT 技術を活用し、省力的な草地更新を実現



【①UAV・衛星を活用した植生調査】

UAV

衛星

通常写真(RGB)

NDVI

【②ほ場マップ作成】

データ連動し、草地更新

【④生産者向け勉強会開催】

実証内容を地域に波及

【③GPSガイダンス・自動操舵を活用した草地更新】

農業散布ドローン
牧草地